

【報道関係各位】

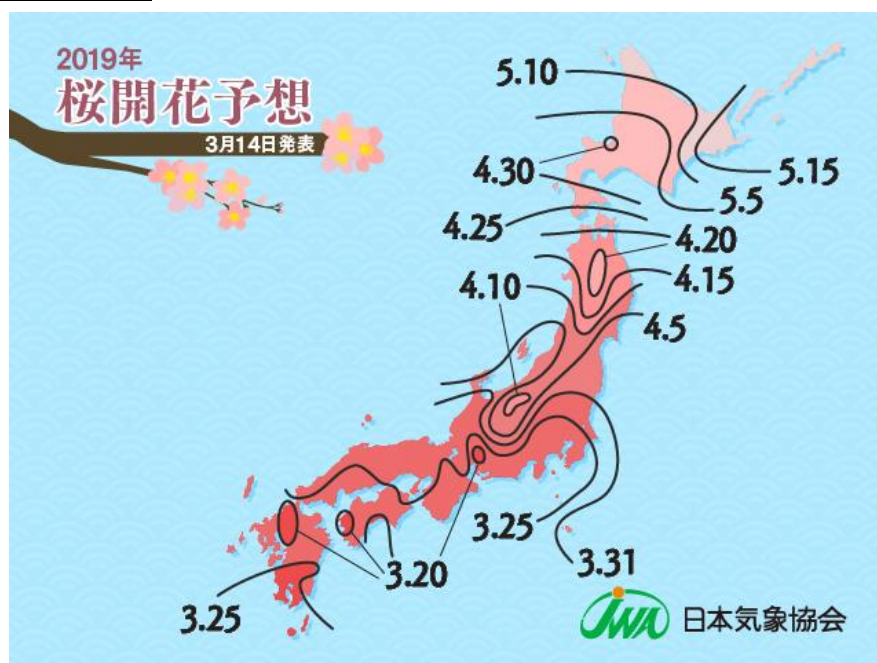
2019 年 3 月 14 日
一般財団法人 日本気象協会

2019 年桜開花予想(第 4 回) 来週、いよいよサクラサク！福岡は 18 日、東京は 21 日に開花

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、会長:石川 裕己、以下「日本気象協会」)は、日本全国 92 地点の桜(標本木[ソメイヨシノほか]53 地点、自治体・公園など 36 地点、および日本三大桜 3 地点)の開花予想日(第 4 回)を 2019 年 3 月 14 日(木)に発表します。

- ◆開花が最も早いのは、福岡や愛媛県宇和島で 3 月 18 日、東京は 21 日の予想
- ◆満開のトップは高知と愛媛県宇和島で 3 月 29 日、東京は 30 日の予想
- ◆3 月は全国的に気温が平年より高く、桜の開花・満開とも平年より早い

■2019 年桜開花予想前線図



■開花と満開の傾向

2019 年の桜の予想開花日は、全国的に平年より早い予想です。前回予想(3 月 7 日発表)よりは 1 日から 3 日遅くなったところが多いですが、来週にはいよいよ桜前線がスタートしそうです。開花のトップは福岡と愛媛県宇和島で 3 月 18 日、熊本や高知、名古屋、岐阜で 20 日に開花するでしょう。東京は 21 日、大阪は 26 日に開花の便りが届きそうです。4 月上旬には平年より 1 週間程度早く、新潟や長野、仙台で、4 月中旬には東北北部で開花するでしょう。桜前線は 4 月下旬に津軽海峡を渡り、札幌で 4 月 30 日に開花する見込みです。

この冬(12 月～2 月)は、寒気の流れ込みが持続せず、暖冬となり、西日本の一部で休眠打破が遅れたと考えられます。しかし、来週から 4 月上旬にかけて気温は平年より高く、開花、満開ともに平年より早いでしょう。ただ、今週末にかけて寒の戻りとなることから、関東を除く多くの地域で前回予想よりは 1 日から 3 日遅くなりました。

満開日は開花日の 1 週間から 10 日後くらいで、予想満開日が最も早いのは高知と愛媛県宇和島で 3 月 29 日です。平年より 2 日から 6 日早いところが多く、名古屋や東京は 30 日、大阪は 4 月 2 日の予想です。

※休眠打破:前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること



■日本気象協会 長期予報(気温)

気温	3月	4月	5月
北日本	高い	平年並か高い	平年並
東日本	高い	高い	---
西日本	高い	高い	---

■2019年 桜の予想開花日・満開日(主な地点)

	地点	予想開花日	平年開花日	昨年開花日 (2018年)	予想満開日	平年満開日	昨年満開日 (2018年)
福岡県	福岡市	3月18日	3月23日	3月19日	3月30日	4月1日	3月27日
香川県	高松市	3月24日	3月28日	3月24日	4月4日	4月5日	3月29日
広島県	広島市	3月23日	3月27日	3月22日	4月3日	4月4日	3月28日
大阪府	大阪市	3月26日	3月28日	3月20日	4月2日	4月5日	3月26日
愛知県	名古屋市	3月20日	3月26日	3月19日	3月30日	4月3日	3月27日
東京都	千代田区	3月21日	3月26日	3月17日	3月30日	4月3日	3月24日
長野県	長野市	4月8日	4月13日	4月2日	4月13日	4月17日	4月6日
富山県	富山市	3月30日	4月5日	3月27日	4月4日	4月10日	3月30日
新潟県	新潟市	4月2日	4月9日	4月3日	4月7日	4月14日	4月5日
宮城県	仙台市	4月3日	4月11日	3月30日	4月10日	4月16日	4月4日
北海道	札幌市	4月30日	5月3日	4月26日	5月4日	5月7日	4月29日

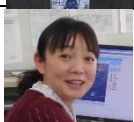
全 92 地点の桜(標本木[ソメイヨシノほか]53 地点、自治体・公園など 36 地点、日本三大桜 3 地点)の予想開花日・予想満開日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじえーぷり)』桜情報ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

また、開花・満開の最新状況は同ページにて1日2回更新予定です。

■各地の気象予報士コメント

	日本気象協会 九州支社(松井 渉) 九州は桜のつぼみの生長が次第に進み、福岡の桜はピンク色が見え始めたものもあります。今週、気温がやや低くなっているため、前回予想よりやや遅くなりましたが、九州各地で桜は平年並みか平年より早く開花し、3月末には見頃を迎えるところが多くなりそうです。
	日本気象協会 四国支店(川越 絵里子) 花芽は順調に生長しており、丸みを帯びた花芽の先からは緑色の部分が見えはじめ、早いところではピンク色がのぞき始めています。この先、しばらく気温は平年並みの日が多く、桜の開花は前回予想より遅くなったところもありますが、平年より早く開花するでしょう。
	日本気象協会 中国支店(筒井 幸雄) 小刻みに降る雨と暖かさに後押しされ、桜のつぼみは緑の色合いに変わり始めています。このあとは、季節の歩みにブレーキのかかる日があり、開花の予想は前回よりも少し遅くなるでしょう。開花から満開までに10日前後かかり、今年の桜は長く楽しめそうです。
	日本気象協会 関西支社(真田 知世) この時季としては気温の高い日が多く、季節は順調に進んでいます。今年は大阪を中心に枝の折れてしまっている部分がありますが、桜のつぼみは先端から緑色の部分が見え、少しずつ膨らみ始めているところもあります。ただ、この先は、冬の冷たい空気が流れ込む日があり、花芽の生長はこれまでよりゆっくりになりそうです。
	日本気象協会 中部支社(菅野 彰太) この先の東海地方は一時的に寒気が流れ込み、季節の進みが少し足踏みしそうです。ただ、桜の花芽の生長は順調で、先が緑色に変わってきたところも出てきました。平野部では3月下旬に開花する見込みで、名古屋と岐阜では来週にも開花の便りが届きそうです。



	<u>日本気象協会 本社(猪股 竜彦)</u> 9 日に関東で春一番が吹き、春の歩みが早まってきましたが、来週前半にかけては寒気の流れ込む日があり、平年並みの気温になる日が多くなる見込みです。花芽の生長が昨年のように極端に早まることはないものの、平年より 5 日前後早く、東京周辺では来週に開花し、3 月末までに平野部の多くの地域で開花するでしょう。
	<u>日本気象協会 長野支店(瀨中 弘樹)</u> この先の気温は、平年より高いと予想してきましたが、平年並みの日も多くなる見込みです。そのため、県内の桜は先週の予想より少し遅く咲く予想に変わってきました。それでも、平年より早く、3 月中には開花前線は長野県南部から北上を始めそうです。
	<u>日本気象協会 北陸支店(瀬山 滋)</u> しばらく周期的に天気が変わり、春らしい暖かい日が多かったですが、今週はぐずついた空模様で、寒の戻りとなっています。このため、開花・満開の予想は前回より少し遅くなった地点が多いですが、各地で平年より早く、3 月末に開花する地点が多いでしょう。
	<u>日本気象協会 新潟支店(今井 梢)</u> 暖かくなったかと思うと雪が降るような寒の戻りもあり、寒暖差が大きい新潟県内です。この先も寒暖を繰り返しますが、気温は平年より高い日が多い見込みで、桜の開花は平年より一週間程度早まるでしょう。
	<u>日本気象協会 東北支社(佐藤 理恵子)</u> 寒暖差が大きく、雪の降る日もある東北地方ですが、梅が咲き、うぐいすやひばりが鳴くなど、南部からは春の便りが届き始めています。この先の東北地方の気温は、平年より高い日が多くなる予想です。桜の花芽は順調に生長して平年より開花が早まるでしょう。
	<u>日本気象協会 北海道支社(田嶋 恵)</u> しばらく平年より暖かい日が続いていた北海道ですが、ここ数日は平年並みの寒さが戻り、まとまった雪の降ったところもありました。しかし来週からは再び暖かい日が戻りそうです。桜の開花は前回の予想と大きな変化はなく、平年並みか平年より 3 日ほど早い開花となるでしょう。

日本全国 92 地点の桜(ソメイヨシノほか)の開花・満開予想以外にも、「日本三大桜」と呼ばれている福島県の「三春滝桜」(みはるたきざくら:ベニシダレザクラ)、山梨県の「山高神代桜」(やまたかじんだいさくら:エドヒガンザクラ)、岐阜県の「根尾谷 淡墨桜」(ねおだに うすずみざくら:エドヒガンザクラ)の開花予想を『tenki.jp(てんきじゃーピー)』桜情報ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

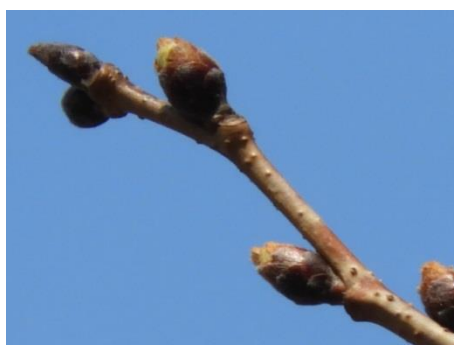
【言葉の説明】

平年:1981～2010 年の平均値

かなり早い	: 平年より 7 日以上早い
早い	: 平年より 3 日から 6 日早い
平年並	: 平年との差が 2 日以内
遅い	: 平年より 3 日から 6 日遅い
かなり遅い	: 平年より 7 日以上遅い



福岡管区気象台の標本木(3月12日撮影)



靖国神社にある東京の標本木(3月12日撮影)



高知城にある高知の標本木(3月13日撮影)



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の報道発表のスケジュールは？

A1: 第1回は2月7日(木)、第2回は2月21日(木)、第3回以降は3月から4月下旬まで毎週木曜日に発表を予定しています。2月中は予想開花日のみを発表し、3月以降は予想開花日と予想満開日を発表します。

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 2月中は51地点、3月以降は全国で92地点の予想を発表します。予想地点92地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる36地点、および日本三大桜の3地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で13年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。

Q6: 日本三大桜とは？

A6: 福島県三春町の「三春滝桜」(ベニシダレザクラ)、山梨県北杜市の「山高神代桜」(エドヒガンザクラ)、岐阜県本巣市の「根尾谷 淡墨桜」(エドヒガンザクラ)を指します。いずれの桜も、大正11年(1922年)に国の天然記念物に指定されています。樹齢が1000年以上で、幹回りが9メートル以上あります。

日本三大桜の開花予想作成にあたり、地元自治体やお寺の住職の方々のご同意を得て、過去の長年にわたる開花日や満開日の観測データを使わせていただき、それぞれの桜の開花日や満開日に関する独自の予測式を作成しました。開花時期には日本気象協会の気象予測を用い、地元自治体やお寺の住職の方々のご協力も得ながら、精度の良い開花予測を提供します。